

平成 23 年 6 月 9 日

科学技術政策担当大臣と有識者議員との会合  
(6 月 2 日(木))  
アクションプラン関連の議事要旨

【各対象範囲における将来の社会像、政策課題、重点的取組について】

(主な意見)

- (奥村議員) グリーンイノベーションで、現在動いている原子力発電所の安全性確保の研究について、どのように取り扱うか。第 4 期基本計画案で取り上げることが検討されている中、24 年度の予算項目に出てこないのはいかがか。極めて国民の関心も高く、きちっと出すべきと考える。
- (相澤議員) 現時点のアクションプラン案には記載していないが、政策課題として記載するのが適当かかどうか。改めて検討する。
- (金澤議員) 基礎研究・人材育成について、科学研究費の若手を育てるのは大事である。しかしながら、日本学術振興会などの制度に入らない研究者もおり、どこかで訓練し、育てるシステムが必要ではないか。初めて研究費に申請するような若手研究者に対して、少額の研究予算を渡して指導し、育成するようなことを行う大学があってもいいのではないか。
- (本庶議員) 各大学では、申請書の書き方などのトレーニングをされていると聞いているが、そういったテクニカルな話ではないという理解で良いか。
- (金澤議員) 大学が研究者を育てる習慣をつけるべき。
- (奥村議員) ライフイノベーションについて、先制医療は、当面の医療費が上がるが、トータルでは減る。先制医療の実施には本人の同意が必要なることを考えると、何らかの事例について、トータルのメリットを示すなど、工夫をしてはどうか。
- (本庶議員) 御指摘の通り、早期に医療介入し、保険適用すれば、短期としてはアップになるが、長期的には大きな削減効果がある。全体としての医療の経済効果を把握するようなプロジェクトについて考えるようにというご指摘であり、検討したい。
- (今榮議員) 若手研究者の育成について、本庶議員が説明された案や金澤議員の御意見に加えて、もう一つくらい若手研究者のサポートの項目があった方がいいのではないか。
- (金澤議員) 研究を始める際に大学の外から予算を持ってくしかないのはどうかと思う。若手研究者のスタートアップ時に大学が責任を持って支援する必要があるのではないか。
- (白石議員) グリーンイノベーションについて、コストについての積算根拠を明示していただきたい。
- (相澤議員) 検討中である。また、一つ目の政策課題の捉え方が、再生可能エネルギーに特化されているが、本来の政策課題はエネルギー供給の安定的確保であり、その一部が再生可能エネルギーである。先の質問に関連して言うと、基幹エネルギーの問題をこの中でどう考えるかということになる。
- (金澤議員) ライフイノベーションについて、レギュラトリーサイエンスが 2 箇所が登場するのはなぜか。

<大臣・総合科学技術会議有識者議員会合資料： 検討中資料>

(本席議員) 関連の大きな箇所に記載しているが、本来レギュラトサイエンスはライフイノベーション全てに関わる基盤的なもの。規制緩和は医療機器、医薬品などで新しいコンセプトを実用化する上での大きな課題であり、第4期基本計画案でも記載されている。

(金澤議員) これについては政策課題に引き上げるべきではないか。

(奥村議員) 現状案では、なぜ必要かということが説明出来ていない。日本の医療産業を育成する一つの方策で、政策課題に本来の目的を記載すべきである。

(金澤議員) 仮に政策課題にした場合、重点的取組はどうなるのか。医薬品だけでなく、食品や水などの安全の問題もレギュラトサイエンスの対象であり、その点も踏まえてはどうか。

(本席議員) その点についても検討する。

(青木議員) 復興・再生について、玄葉大臣との会合を行った際に学際的なリスクマネジメントの学問があるという話があったが、そのようなことも含むのか。

(奥村議員) 検討する。

(青木議員) コストを積算する際、技術と材料の違いがあり、それも分けて記載すべき。

(相澤議員) 研究開発も含め、システム全体のコストの構成を見て考えることになる。研究開発におけるコストはあいまいであり、十分見極めたうえで、考えるべき。

(奥村議員) 国が低コストを推進する場合、ドラスティックに変わることを期待するものである。現在の表題ではインクリメンタルな印象を与えるので、検討すべき。

(本席議員) 原発では放射性廃棄物を処理する際のコストが計算されていない。どこまで含んだコストかを明確にする必要がある。本来は最終処理まで含まないと意味がない。

(相澤議員) 来週は柱建ての議論を総括し、パブリックコメント原案作成も視野に入れ、検討していただく。